

鈴鹿市高齢者福祉計画（第8次計画）の基本目標及び活動指標

基本目標1 地域包括ケアシステム構築の推進

成果指標1：生活支援コーディネーターの配置数

年度	2018年度	2019年度	2020年度
目標値	5人	29人	29人
実績値	5人	5人	5人

【2020年度の具体的な取組内容】

市社協に配置している第1層のコーディネーターを1人、第2層のコーディネーターを4人の計5人が、第3層の地域づくり協議会の範囲において住民主体の介護予防・生活支援体制整備を推進するため、地域の支え合いの活動及び通いの場であるサロンの立ち上げ・運営支援を行った。その結果、前年度に比べて、支え合い活動に取り組む地域づくり協議会が2地区から4地区に、サロン数は91箇所から96箇所に増加した。

【今後の課題や方向性】

地域の支え合いの仕組づくりの取組が全市（28の地域づくり協議会）に広がるよう、生活支援コーディネーターが、各地域の担い手の掘り起こしや支援を行い、リーダーを育てて住民主体の生活支援体制の整備を推進していく。

基本目標2 高齢者福祉の推進

成果指標2：高齢者の在宅生活を支えるための事業利用者数

年度	2018年度	2019年度	2020年度
目標値	1,200人	1,300人	1,300人
実績値	1,255人	1,263人	1,244人

【2020年度の具体的な取組内容】

各事業において、高齢者のニーズに対応するための見直しを行いながら実施した。

【今後の課題や方向性】

単身高齢者や身寄りのない高齢者の増加等、社会環境の大きな変化に対応できるよう、関係機関と連携してニーズを把握し、必要なサービスの提供を図る。

1 地域包括ケア体制の確立

活動指標1：地域ケア会議の開催回数

年度	2018年度	2019年度	2020年度
目標値	125回	125回	125回
実績値	184回	236回	110回

【2020年度の具体的な取組内容】

解決が困難な個別ケースに関する方策の検討・情報交換、地域課題の把握・解決に向けた協議を行い、施策形成につなげるための意見交換等を行った。

【今後の課題や方向性】

個別会議、圏域会議、推進会議における会議の役割を明確にして、会議の充実を図る。

2 介護予防・生活支援の推進

活動指標2-1：介護予防教室の延べ参加者数

年度	2018年度	2019年度	2020年度
目標値	22,500人	23,000人	23,500人
実績値	25,439人	22,569人	6,291人※

※代替事業 在宅高齢者フレイル予防事業：郵送（7,752） 電話（6,275）

【2020年度の具体的な取組内容】

運動・口腔・栄養・認知症等に関する教室を、介護事業所・公民館・保健センター・住民主体の通いの場等で実施する一方、コロナ禍において教室等の通いの場の休止により参加者への電話と資料等の郵送により啓発を行った。

【今後の課題や方向性】

感染予防対策を行いながら開催できる、住民主体のサロンや老人クラブ等の通いの場を支援するよう出前教室や、自宅のできるWEB教室を行い、要介護状態や虚弱状態（フレイル）の発生及び悪化の予防・軽減を図る。

活動指標2-2：地域における介護予防活動の支援者の登録人数

年度	2018年度	2019年度	2020年度
目標値	320人	375人	450人
実績値	305人	331人	335人

【2020年度の具体的な取組内容】

鈴鹿いきいきボランティアやスクエアステップリーダー等、住民主体の介護予防活動の支援を行った。

【今後の課題や方向性】

住民主体の通いの場の充実のため、養成と活動支援を行っていくとともに、関係機関と連携を図りながら介護予防に資する地域活動組織への支援を行う。

3 認知症施策の推進

活動指標3：認知症サポーターの養成人数（累計）

年度	2018年度	2019年度	2020年度
目標値	17,000人	21,000人	25,000人
実績値	15,839人	18,711人	19,776人

【2020年度の具体的な取組内容】

認知症に関する正しい知識と理解を身につけた認知症サポーターやキッズサポーターを養成するための講座等を実施したほか、大学等において感染リスクを考慮したWEB型の講座を実施した。

また、講座の講師を務めるキャラバン・メイトの活動支援を行った。

【今後の課題や方向性】

地域団体や学校、企業等と連携しながら、幅広い世代に受講してもらえよう、啓発等を行う。

4 医療・介護の連携の推進

活動指標4：鈴鹿市地域包括在宅医療ケアシステム運営会議の開催回数

年度	2018年度	2019年度	2020年度
目標値	9回	9回	9回
実績値	7回	7回	5回

【2020年度の具体的な取組内容】

委員会を3回、勉強会を2回開催した。勉強会については、コロナ禍においてWEB研修とし、鈴鹿市地域包括在宅医療ケアシステム運営会議を中心とした関係機関の連携強化を図った。

また、研究会については、感染リスクを考慮して中止した。

【今後の課題や方向性】

鈴鹿市地域包括在宅医療ケアシステム運営会議を定期的で開催し、関係機関の連携強化を図る

5 高齢者の尊厳を守るための施策の充実

活動指標5：権利擁護シンポジウムの開催回数

年度	2018年度	2019年度	2020年度
目標値	1回	1回	1回
実績値	1回	1回	0回

【2020年度の具体的な取組内容】

成年後見制度の利用を促進し、被後見人の権利擁護に取り組んだ。

なお、権利擁護シンポジウムについては、コロナ禍における感染リスクを考慮し中止した。

【今後の課題や方向性】

家庭や親族間の環境が変化し、高齢になって誰からも支援を受けることができない方が急増している。成年後見の必要な方々が制度利用につながるよう必要な支援を行うとともに、事前の準備等市民への啓発を行い、制度の理解を深める。

6 住まいの確保

活動指標6：民間賃貸住宅相談会の開催回数

年度	2018年度	2019年度	2020年度
目標値	1回	1回	1回
実績値	1回	1回	1回

【2020年度の具体的な取組内容】

三重県居住支援連絡会の構成団体として、高齢者、障がい者、外国人、子育て世帯等で賃貸物件が見つからず困っている人に対し、ショッピングセンター等での民間賃貸住宅相談会の開催やパンフレットの配布等により、高齢者等の円滑な入居に関する支援を行った。

【今後の課題や方向性】住宅困窮者の安定した居住の確保を図るため、三重県居住支援連絡会の構成団体として高齢者等の円滑な入居に関する支援を行う。

7 安心・安全の体制づくり

活動指標7：災害時要援護者台帳の登録者数

年度	2018年度	2019年度	2020年度
目標値	8,800人	9,000人	9,200人
実績値	8,897人	9,229人	9,566人

【2020年度の具体的な取組内容】

災害時要援護者台帳の理解を深めるため、広報を行った。民生委員・児童委員と連携し、登録啓発を行った。

【今後の課題や方向性】

対象者が増加していく中で、効率的で効果的な事務の流れとシステム管理を確立していく必要がある。また、台帳の位置付けと効果的な利用方法を今後の地域づくりの動向も見ながら、全庁的に検討する必要がある。